

だ い ず 通 信

令和8年 第2号

連作ほ場ではマメシンクイガの防除は2回実施しましょう。

2回防除の場合は、1回目が8月第5半旬頃、2回目はその1週間後が適期です。

1回防除の場合は、8月第6半旬から9月第1半旬が適期です。

1 気象と生育状況

- ・出芽後の気温は7月下旬及び8月上旬を除いて平年より高く、日照時間は7月中・下旬を除いて平年を上回った日が多かった。
- ・降水量は6月下旬頃から8月上旬まで断続的にまとまった雨があったものの、湿害症状が見られるほ場は少なかった。
- ・県生育観測ほの開花期は、8月1日で平年より4日遅かった。8月10日時点の生育は、草丈が平年より長く（107%）、葉数は平年より多かった（+0.5枚）。

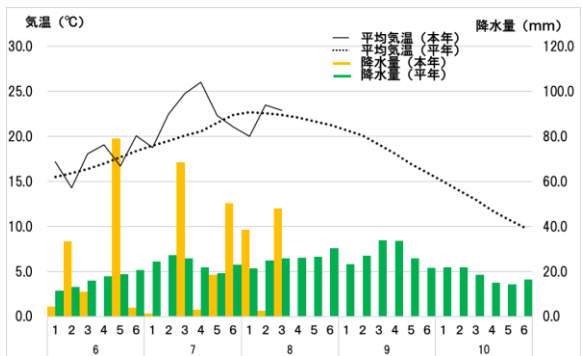


図-1 平均気温と降水量

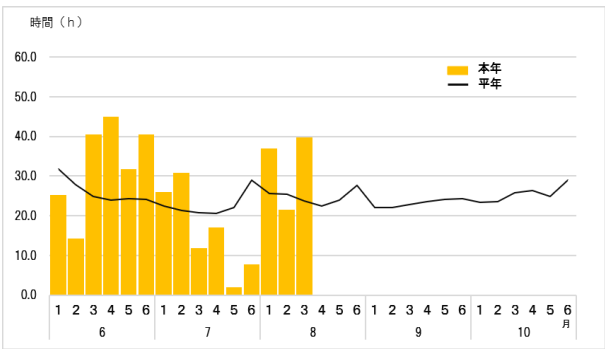


図-2 日照時間

表-1 生育状況調査結果

地点名	年度	生育ステージ			出芽 本数 (本/㎡)	8月10日	
		は種期	出芽期	開花期		草丈 (cm)	葉数 (枚)
県生観 十和田市 赤沼	本年	6月4日	6月14日	8月1日	22.1	100.6	13.8
	平年	6月1日	6月10日	7月28日	17.6	93.6	13.3
	差・比	遅3日	遅4日	遅4日	126%	107%	104%
地区生観 七戸町 天間林 晩播狭畦	本年	6月18日	6月27日	8月8日	35.4	85.0	9.9
	平年	6月25日	7月1日	8月9日	27.6	71.3	10.7
	差・比	早7日	早4日	早1日	128%	119%	92%

平年は、県生観：平成22～令和7年、晩播狭畦：平成28～令和7年

2 病害虫防除

- ・マメシנקイガはだいずを連作したほ場で多発するので、連作時は2回防除とする。

【2回防除の場合】1回目は 8月第5半旬頃、2回目はその1週間後
 【1回防除の場合】8月第6半旬～9月第1半旬1回

- ・カメムシ類の防除は、1回目のマメシנקイガ防除時にカメムシ類にも登録のある薬剤を散布する。
- ・紫斑病は開花後20～40日の間に薬剤散布を行うことで、マメシנקイガとの同時防除が可能である。
- ・薬剤耐性菌や薬剤抵抗性害虫の発生を抑えるため、2回防除の場合、1回目の散布と2回目の散布で薬剤の種類を変える。1回防除の場合は、使用薬剤を毎年変更する。

(参考) マメシנקイガ・カメムシ類・紫斑病に登録のある薬剤

薬剤名	適用病害虫			希釈倍数	使用時期	使用回数
	マメシנקイガ	カメムシ類	紫斑病			
トレボン乳剤	○	○	/	1000倍	収穫14日前まで	2回以内
パーマチオン水和剤	○	○	/	1000～2000倍	収穫21日前まで	3回以内
アディオオン乳剤	○	○	/	3000倍	収穫7日前まで	3回以内
		—		24倍を0.8ℓ/10a 無人航空機散布		
プレバソンフロアブル5	○	—	/	4000倍	収穫7日前まで	2回以内
				16～32倍を0.8ℓ/10a 無人航空機散布		
ファンタジスタフロアブル	/	/	○	1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内
				16倍を0.8ℓ/10a 無人航空機散布		
プランダム乳剤25	/	/	○	3000～5000倍	開花後～ 収穫7日前まで	2回以内
				16～24倍を0.8ℓ/10a 無人ヘリコプター散布		
ゲッター水和剤	/	/	○	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
アミスター20フロアブル	/	/	○	2000～3000倍	収穫7日前まで	2回以内
				16～24倍を0.8ℓ/10a 無人航空機散布		

※ゲッター水和剤及びアミスター20フロアブルは、耐性菌の発生が確認されており、連用で効果が低下するため、隔年使用に努める。